

# NS 形ダクタイル鉄管

接合要領書 — その2

適用呼び径

500～1000



日本ダクタイル鉄管協会

を金尺などで確認しながら行い、上下の隙間の差および左右の隙間の差が、どちらも 2 mm 以下となるようにする。

③ ライナを木製くさびなどで持ち上げた場合、ライナの心出しを行った後、ライナが動かないようにくさびを取り除き、再度上下の隙間の差と左右の隙間の差が 2 mm 以下であることを確認する。

④ 最後に、ライナが受口奥部にセットされていること、およびライナ心出し用ボルトの全数が受口内面に接するまで締め付けられていて、がたつきがないことを確認する(図 31 参照)。

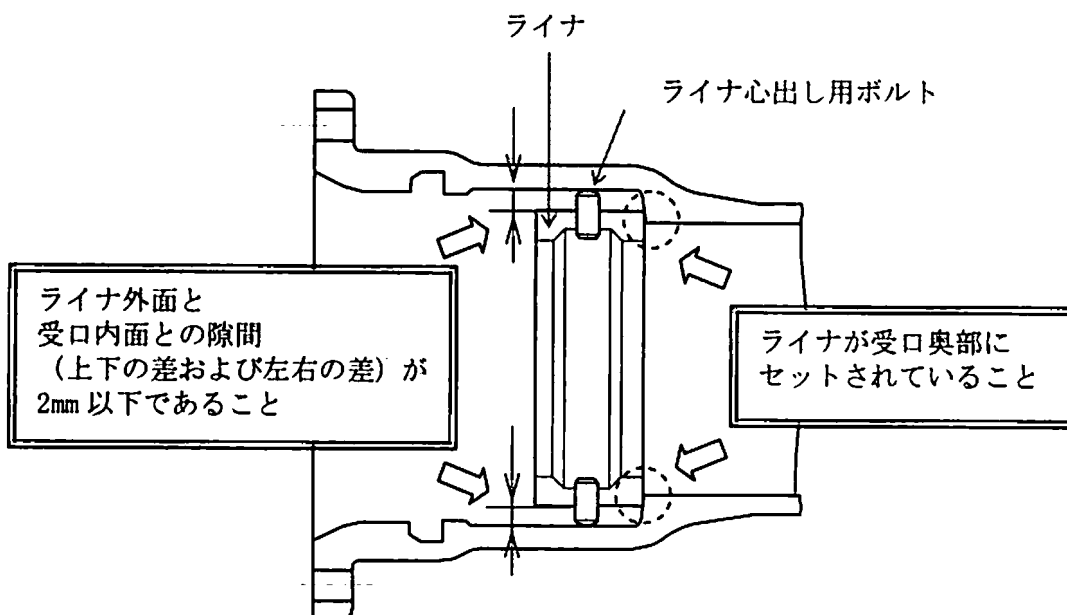


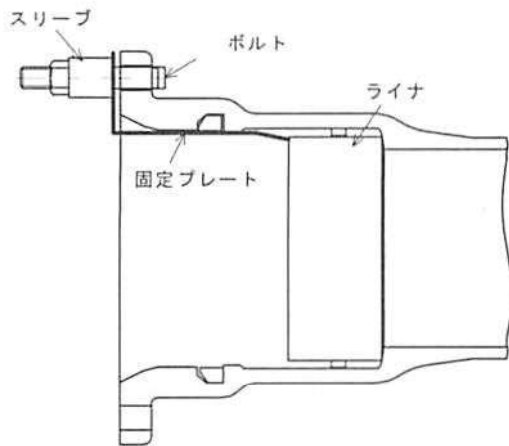
図 31 ライナの心出しの確認方法



**注意** 上記事項を守らなかった場合、継手の機能が損なわれる恐れがあります。

⑤ 受口が下を向く方向に傾けると、ライナが受口から落下する危険があるため、ロックリングのセット後にライナ固定治具(固定プレート、スリーブ、ボルト)を用いてライナを固定する(図 32 参照)。

なお、ライナ固定治具は受口に挿し口を挿入した後、取り外す。



ライナ固定治具の取り付け数

呼び径 500	: 2ヶ所
呼び径 600、700	: 3ヶ所
呼び径 800～1000	: 4ヶ所

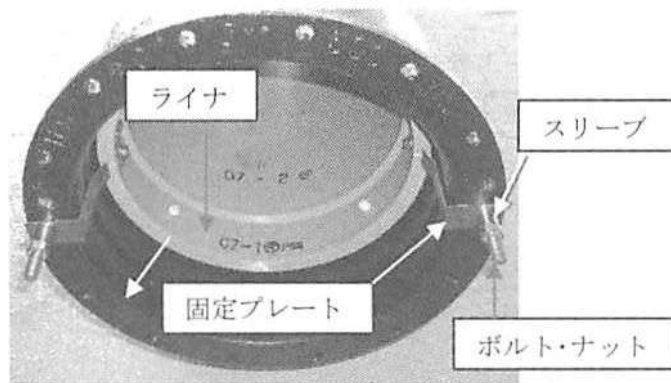



図 32 ライナ固定治具

 **注意** 上記事項を守らなかった場合、ライナが落下し、重大災害を引き起こす恐れがあります。

- 4) 「ロックリングのセット」から「ゴム輪、バックアップリングのセット」までは直管の接合要領に従う。
- 5) 「挿し口の挿入量の明示」から「ロックリングの位置確認」までは異形管の接合要領に従う。挿し口挿入量確認のための白線表示位置を図 33 に示す。

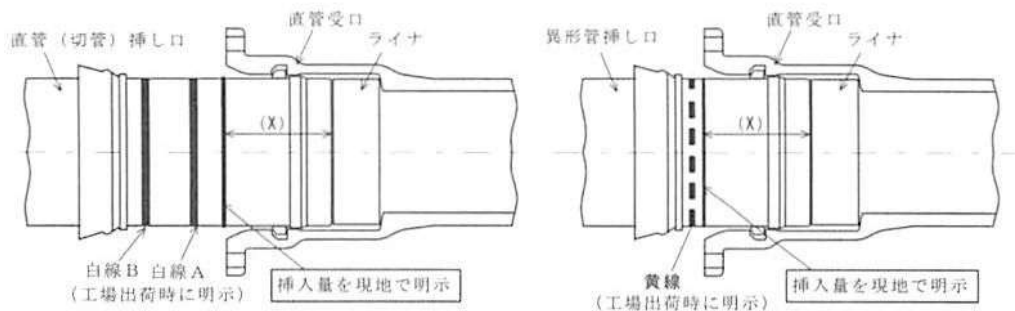


図 33 挿入量の明示



接合要領書の内容は、製品の仕様変更などで予告なく変更される場合がありますので、当協会のホームページ (<http://www.jdpa.gr.jp>) から最新の接合要領書がダウンロードできますので、お手持ちの接合要領書をご確認いただき、接合作業時には最新の接合要領書にしたがって作業を行ってください。

## 日本ダクタイル鉄管協会

<http://www.jdpa.gr.jp>

- |        |                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------|
| 東京事務所  | 東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館)<br>電話 03 (3264) 6655 (代) F A X 03 (3264) 5075   |
| 関西支部   | 大阪府中央区南船場4丁目12番12号(小西・日生ビル)<br>電話 06 (6245) 0401 ~ 2 F A X 06 (6245) 0300 |
| 北海道支部  | 札幌市中央区北2条西2丁目41番地(セコム損保札幌ビル)<br>電話 011 (251) 8710 F A X 011 (522) 5310    |
| 東北支部   | 仙台市青葉区本町2丁目5番1号(オーク仙台ビル)<br>電話 022 (261) 0462 F A X 022 (399) 6590        |
| 中部支部   | 名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)<br>電話 052 (561) 3075 F A X 052 (433) 8338        |
| 中国四国支部 | 広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル)<br>電話 082 (545) 3596 F A X 082 (545) 3586         |
| 九州支部   | 福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル)<br>電話 092 (771) 8928 F A X 092 (771) 8928        |